

J K A補助事業評価委員会 議事録

【日時】

令和8年7月28日（火） 16:00～16:40

【場所】

特別養護老人ホーム矢部大矢荘 1階 会議室

【出席者】

瀬戸美佳（施設長）・國武小百合（介護部長）・牧下かつえ（看護部長）
田上智佳（介護課長）・前田美喜子（介護係長）・鞍岡真代（介護課長）
橋本綾香（機能訓練指導員）・藤永真紀子（管理栄養士）
岩下あづさ（事務主任）・西山友基（事務）

【検討内容】

J K A補助事業についての説明及び事業評価

【決定事項】

事業の実施状況・達成状況を確認し、評価基準により採点を実施した。

【議事録作成者】

藏原 剛

<自己評価1回目>

補助事業者名	(福)蘇南会	事業項目名	特殊浴槽の整備
--------	--------	-------	---------

JKA補助事業 2026年度 自己評価書

補助事業の自己評価

作成日	2026	年	8	月	4	日	作成者	蔵原 剛
-----	------	---	---	---	---	---	-----	------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画書の達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者とそのニーズ	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	予定どおり、オープン型シャワーバス(セレーノ)、多機能ストレッチャーを導入した。 計画書通りの時期(6月9日)に搬入・設置が終了し、6月10日から利用者の入浴が可能となっている。利用者に安全で安心、心地よい入浴時間の提供ができる機器である。				
	実施計画・体制	スムーズに搬入・設置が終了し、入浴が実施できている。 入浴機器、ストレッチャーへの移乗時は高さを同じにスライドできること、又、以前のネットと違い沈み込みがなく、利用者を側臥位にする時の怪我の防止につながっている。			4
	事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 2026年6月	[達成状況] 100%	[具体的内容] セレーノシャワーバス導入により、ストレッチャーの沈み込みがなく、横幅も広いため、外傷等なく安全に着脱できている。 ストレッチャーへの移乗も高さを同じにし、スムーズに行えていて、利用者・職員共に安心・安全・安楽で心身の負担軽減腰痛予防になっている。	4
	事業の成果・波及	[達成値] 224件	[達成状況] 91%	[具体的内容] 達成率は91%であるものの、入院者及び体調不良者の清拭対応のためであり、実質は100%である。	4
(4) 広報計画	事業の実施結果	[達成値] ① 1回 ② 1回	[達成状況] ① 100% ② 100%	[具体的内容] ① 競輪バナー、補助事業のバナーをトップページに掲載し、特殊浴槽導入後完了のお知らせ(競輪の補助事業であることを明示して)をお知らせ一覧に掲載した。 ② ポスター印刷を実施、6月に掲示を実施した。	4
(5) 自己評価の体制	予定通りアンケートを実施し評価を行った。(「評価課程の記録」として議事録添付)評価結果を法人ホームページに掲載				4

(b) 総合評価

●(a)個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。		総合評価点	4
(1) 事業全体についての意見・所感	セレーノシャワーバスを導入したことにより、利用者の安全・安心で、快適な入浴が実現できている。 職員にとっても、身体的な負担が軽減され、腰痛予防にも効果が期待できる。		
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	優れている点 ストレッチャーの昇降で高さが合わせられ移乗しやすい ストレッチャーの幅が広くなり、着脱しやすい 個々に合わせた温度に設定できる セレーノ機器からボディソープが出て洗体でき洗淨できる シャワーカーテンが透明で中が見えるため洗体しやすい 課題、改善すべき点 ストレッチャー頭部が華上できるが、円背が強い方用にもう少し上がれば良いと思う 背中側下方からシャワーがあるというと思う		
(3)その他アピールしたい点 是非知ってもらいたい点	ストレッチャーサイドガードがあることにより、利用者の恐怖心が大きく軽減、また、入浴担当職員の心理的負担が大きく軽減され、安心安全な入浴が可能となった。		

補助事業者名	(福)蘇南会	事業項目名	特殊浴槽の整備
--------	--------	-------	---------

JKA補助事業 2026年度 自己評価書

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「＊」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「＊」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因			(1) 経費		
			(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)		
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
			(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7) その他		
外部要因			(8) 受益者の規模・ニーズ		
			(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者 (受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生 (地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
		(15) その他			
＊			(16) 特になし		